

## ★コラム 「先輩ママからの一言」

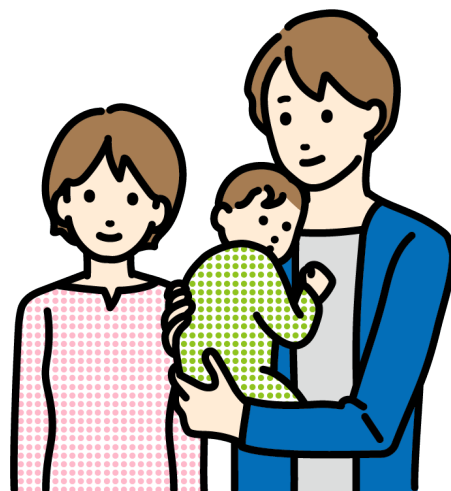
障がいのある子ども達が通う事業所は、市内だけでもたくさん数があり、それぞれの事業所が特徴のある活動をしています。なので、最初選ぶときに「どういう基準で選んだらいいのか？」と難しいかもしれません。そういう場合は、ぜひ「相談」されるといいと思います。相談先については、この冊子に何件か紹介しています。

発達障がい児を育てていて思うのは、しかるべき機関に「我が家の子育てが大変なんだ」ということをしっかり訴えて、どうしていけばいいか「相談」していくことが大事だと思います。そして、専門の方の話を聞いて、自分の子どもの特徴や課題を捉えて、その子にあった事業所を探して決定していく。全てのことを、自分ひとりで背負い込まずに、「人に上手に頼って、みんなで子育てをしていく」といいと思います。

そうしていくことで、お母さんやお父さんの心的負担が軽くなっていくので、過去の私のように、鬱やノイローゼになってしまうリスクを回避できるのではないかと思います。真面目なお母さんやお父さんだからこそ、自分たちだけで頑張ってしまうかもしれませんが、「子育ては、両親だけがするものではなく、地域みんなで育てていくものだ」と思います。普通の子どもでさえもそう言われているのです。障がいをもつ子は、よりたくさんの周りの手助けが必要だと思います。

もうひとつ伝えておきたいことがあります。現在、市内では様々な事情で、希望の日数同じ事業所が利用できない、ということが現実的に発生しています（とくに放課後等デイサービスではそれが顕著です）。だからといって、週5日全部違う事業所を利用するというのは、「変化が苦手な子が多い」発達障がいの子どもにとって、心理的肉体的に色々な負担がある、ということは頭に入れていただけたらいいと思います。保護者の方も、近年コロナで色々厳しい中お仕事をされているなどして、そういう利用せざるを得ない場合もある、というのは私も理解しています。でも、お子さんがより安心した環境で療育を受けられるようになるといいなと願っています。

かく言う私も、自分自身模索しながら子育てをしている最中です。障がいをもつ子どものお父さんお母さんが、療育を通してお子さんの成長を喜んでいけて、将来、お子さんが少しでも「生きやすい大人」になっていけることを願っています。



松尾あゆみ